

安曇野市公民館報

安曇野市
中央公民館
No.7 2012.7.4
TEL62-4565

安曇野市公民館大会開催

5月20日(日)に、第6回大会を豊科公民館ホールで開催しました。大会の中で、次の皆様が功労者として表彰を受けました。皆様には、地区公民館の役員として4年以上公民館活動の推進のためにご尽力いただきました。

- ▼豊科、前新田地区公民館長 羽重暁雄 ▼豊科、前寺所地区公民館長 内山金藏 ▼豊科、前寺所地区公民館長 小野照武 ▼穂高、前柏原地区公民館長 塚田眞次 ▼穂高、前宮城地区公民館長 中村茂實 ▼堀金、前小田多井地区公民館長 牛丸篤 (敬称略)
- ・事例発表 次の2つの事例発表がされました。
 - 堀金岩原地区 浅川泰通館長「役員協力体制が実った公民館活動」
 - 穂高豊里地区 佐原悦司館長「豊里・菜の花プロジェクトへの取り組み」



功労者表彰

長期間、公民館に携わって

前小田多井地区公民館長 牛丸 篤

平成20年4月〜平成24年3月までの4年間、小田多井区の公民館活動に携わって参りました。役員をお引き受けした当初、私はまだ松本の会社に勤めておりました。

家は地区の外れに位置しており通勤、生活での移動は堀金の道路を利用することなく過ごして参りました。そのため、私は地域の皆さんとの交流も薄く公民館活動を

行っていく上で、いかに地域の皆さんと活動を行っていったら良いか戸惑いを感じました。

しかし、公民館活動を行っていくには「地域のつながりの場を提供し住みよい地域づくりをしていかなければならない」ことを学び、地域のコミュニケーションが必要と考えるようになりました。4年間、地域の皆さんや諸団体の協力を得て公民館活動を進めることができ、参加者も増え、地域のコミュニケーションの活性化が図れたの

ではないかと思っております。私は活動に携わって地域の皆さんとの交流が持てたことを大変嬉しく思いました。

・記念講演

「地域で育むまちづくり

〜やりとりで学びあう公民館〜

東北芸術工科大学芸術学部

松田道雄教授

松田教授講演要旨

現在、地域においてはコミュニケーションの形成が大きなテーマとなっている。これは、団塊世代を中心とした、元氣な退職者が増大していることにも起因する。

多くが組織社会に身を置く男性に対して、自分個人で、周りと関

5月15日、穂高総合支所ITルームにて「インターネットを安全に使う」講座に参加しました。私は今まで、市内のパソコン教室に通って、ワードやエクセルで文章入力や簡単な表作成を、また、写真を取り込んだり、年賀状作りなどを学んできました。

インターネットを

安全に使う

穂高柏原 波場禮子

暮らしの中で使える楽しみが増えそうです。

今では友人に頼まれて年賀状を作ったり、回覧文書を作成したり、写真付きのメールを交換するなど楽しんでいきます。しかし、インターネットは時々ホームページを見たりするだけ



松田教授

係を築いていく女性の社会との係わりは対極にあると言える。女性社会に代表されるコミュニケーションは「やりとりする」「集まる」「分け合う」活動が、何らかの媒体物を通して行われている。組織社会を退職した男性が、地域で新たに周りと関係を築いていくには、これらコミュニケーションの様式を身につける「学び」が必要となってくる。

で、使いこなせないまま過ぎてきました。受講中は、必要なページだけを印刷する方法など、知らなかったことをたくさん教わりました。旅行に行くときの路線案内など、日々の暮らしの中で使える楽しみが増えそうです。

ウイルス対策など難しいこともいろいろあるインターネットですが、教えていただいた事を忘れないうち、絶えずパソコンに触れながら、楽しく安全に使っていかたいと思います。



安曇族の故郷「志賀島」へ
徳高神社宮司
小平弘起

私は一生懸命

昨年「おひさま」のテレビ放映で全国に知られることになった安曇野は、海洋民族「安(阿)曇族」の一部が移住した地で、安曇野市内約70の神社の内20数社でお祭りに御船の山車が引き出される。海の民の里であることを先人たちはいつ頃から知っていたのだろうか。

か。その安曇族の本拠地は志賀島、博多湾と玄海灘を見渡せる島は周囲10キロ程で風光明媚、国宝「金印」が出土した島で有名。古代には神々の島とも言われ、島に鎮座する志賀海神社の神々が徳高神社に祭られている縁もあり、さらに親密度が高まるよう努めたい。安曇族の縁から福岡市東区との官民、子供たち、また安曇族を研究する会などとの交流が広がり、活発になりつつあるので積極的に係っていききたい。交通手段のおかげで時間的に近くなった福岡市・志賀島を訪ね、安曇族の故郷を実感されるのはいかがだろうか。

万人巻首

〜俳句〜

咲きかほる高貴なるかな白牡丹
熊倉 丸山 正義

流木の白き河原や夏帽子
柏原 浅野 吉子

健やかに生きむと願ひ菖蒲の湯
吉野 小林 政枝

〜短歌〜

ふるさとに流れる歌は遠き日の吾が青春のなつかしき歌
柏原 等々力 成

爛漫の桜を写す堰の水広き安曇田満たし潤す
熊倉 牟禮 悦也

表秋は葉うら返しの風渡る田舎暮らしにとっぷりひたり
熊倉 丸山 康子

—作品をお寄せください—

〒399-7102 安曇野市明科中川手6824番地1
教育委員会社会教育課内館報編集事務局 宛
TEL.62-4565 FAX.62-3525
E-mail:shakaikyoku@city.azumino.nagano.jp
次号は9月5日発行、8月10日締め切りです。

人々から「長尾の観音さま」と親しまれ、信仰を集めてきた平福寺は、中世荘園時代に徳高牧の満願寺が、矢原庄及び猪鹿牧の霊場であり、明科南陸郷の泉福寺が大穴庄の霊場だったのと同様、住吉庄の霊場として千余年を超える歴史を重ねる高野山の龍光院を本山とする、真言宗のお寺です。ただ今は、安曇野の平たんな住宅地域にありますが、創建当時は

古きを尋ねて

⑥長尾山 平福寺

北アルプスまで続く黒沢扇状林の東端に位置し、4万7千坪の境内に、千余本を超える松や、数百本の杉とヒノキや唐松等がうっそうと茂り、昼なお暗い森の中に、三門、仁王門、鐘堂、庫裏、本堂、観音堂、経蔵、庚申堂、土蔵等があったということ。開基は、松本藩のまとめた史書『信府統記』に、「長徳年中、当国の国司藤原惟正建立、寺領をも寄付せられたり(以下略)」とありますが、藤原惟正という人物が信濃国の国司に補任されたという事実は確認できません。一方、開山を乾察法印とする承安4年(1174)の文書もありますが、いずれも真偽は不明です。創立が長徳年間とする確たる証しはありませんが、平福寺の観音堂に祭られている仏像で、鎌倉時代初期の造立とされて県宝に指定された、本尊の木造聖観音立像は、100年に一度開帳される秘仏で、庶民の信仰を広く集め、近世



木造聖観音立像

は松本藩主の祈願寺として重用されたことから、住吉庄の祈願寺であったものと推定されています。創建以来度々の火災や兵火で全焼するなどの被害を受け、その都度再興される等の、栄枯盛衰の歴史を重ね廃仏毀釈によって廃寺となった後、観音堂の境内に再興され今日に至っています。

お詫び：古きを尋ねて④有明山と有明神社は百瀬宗治様(安曇野市文化財保護審議会会長)より寄稿いただきました。



やったね！ホームラン

「ナイスピッチー！」「遠慮しないで打てよー！」グラウンドに響く、ベンチの声もにぎやか、楽しそうな雰囲気でのソフトボール。ホームランも飛び出して、熱戦が繰り広げられた。かたや、体育館では子ども達が大活躍のドッジボール。さすが地縁で結ばれたチームワーク、戦術もお見事！ママ達も負けてはいない、パワーを感じる試合だった。梅雨の晴れ間の6月10日に行われた、地区公民館対抗の球技大会。親睦と友好をはかる良い機会だった。(豊科北中学校にて)

6/10

地縁でチームプレイ！

豊科地域公民館対抗球技大会

みちしるべ

こうみんかん



絵：加々美 豊

5/25

各地区へ料理を伝達



先生、こっちも教えて

堀金公民館で伝達料理講習会を開催。教わった方が、今度は先生となり地区で伝達をする。地産地消と食育がテーマで、メニューは「飾り寿司の四海巻き」など。

6/10

穂高ソフトボール大会



優勝杯めざして!!

午前8時、市営有明運動場で28チームが出場し開会式が行われた。Aブロックは狐島公民館、Bブロックは久保田公民館が、それぞれ優勝の栄冠に輝いた。

5/26

廃線敷を探検したよ



新緑が気持ちいいね

明科公民館は、小学生対象に明科みつけ隊を開催。旧国鉄篠ノ井線跡を探検し、お昼には自分たちでおやき・すいとんを作った。地域の友達とも仲良く交流し、楽しい1日となった。

6/16

オリジナル鉛筆立てを作ったよ



どんなデザインにしようかな

三郷公民館は、あづみ野つくり隊を開催した。絵の具などを使い、思い思いに彩る隊員たち。使えば勉強もはかどるね。つくり隊は、年6回開催を予定している。

6/3

湯泉山をトレッキング



頂上からの眺めは最高!

穂高公民館は、湯泉山トレッキングを開催した。途中、シジュウカラの声を聞き、ヤマツツジ・ネバリノギランなどを観察。急な登りもあったが、全員が無事に歩き通せた。

地区公民館だより

堀金地域田尻地区公民館

笑顔でつながる地域を目指して

私が田尻地区の公民館長に選任されたのは3月下旬。裸の木々が寒風に耐えていた頃でした。あれから2カ月、なかなか上昇しない気温の中でようやく芽吹いた若葉が、今、陽光を全身に浴びて緑に輝く季節になりました。

4月当初は、24年度の年間事業計画や予算案の作成に四苦八苦しました。困った時、前年度役員からの助言はまさに天の声でした。おかげで、運営委員会の承認もいただき、具体的な活動の一步を踏み出すことができました。この進展状況を樹木に例えるなら、裸木の枝にようよう新芽が膨らみ始めた、といったところでしょうか。

田尻地区は、堀金9地区の中で西部に位置し、戸数約3000戸、実行組合（旧農家組合）8組合、更に班35班（班長は福祉員兼務）で編成されています。

私が居を構えた32年前に比べると、田畑が住宅地化する現象が確実に増えつつありますが、兼業農家も多く、安曇野らしい田園風景が広がる心安らぐ地域です。

事業計画を練る際、新しい事業を始めるには必要経費の捻出が

難しく、結局は過去に実施された事業を参考にしないといけないのもどかしさを味わいました。しかし、その行事を楽しみに待つておられる区民が大勢おられることも忘れてはなりません。結局、本年度は以前に好評を受けた事業を中心に、内容に工夫を加えながら進めることにしました。

4月22日、体育部主催で満開の桜を楽しみながらウォーキング大会を実施しました。6月には日帰り親睦バス旅行。8月、家族で楽しめる納涼祭。10月、敬老会。11月、近年連続上位入賞の輝かしい実績のある堀金地域駅伝大会に向けての練習……と事業を進めていく予定です。

本年度、田尻地区公民館運営委員は、幸い団結力のある方ばかりです。年間行事とそのプロセスを通じて、運営委員や区民の皆様の絆がますます深まることを確信しています。

(田尻地区公民館長 重田昭彦)



拾ヶ堰沿いをウォーキング

明科身体障がい者福祉協会写真クラブは、身障協会教養部の中の一つとして昭和55年に発足して、33年になります。昭和60年日本報道写真連盟(毎日新聞社内)に松本支部明科分会として所属しました。平成7年に明科支部になりました。

現在会員は男女合わせて12名で、明科公民館で月例会を行っています。この月例会では、テーマを決めず自由に撮影した作品を持ち寄り、撮影した場所や苦労話をしながら、作品を見せ合っています。

グループ紹介

明科身体障がい者福祉協会 写真クラブ



見て学んでいます。作品の展示は明科公民館ホールや安曇野ランド、その他に明科福祉まつり、障がい者芸術文化祭にも出展しています。昨年は知事賞受賞者が出ました。年間賞に入賞した会員には、賞状と盾が送られます。毎月発行される会報に全国の入選作品が発表され、自分の作品が掲載されているかがとても楽しみます。それを励みに自己の感性を磨いていきたいと思っています。

また、作品を本部へ送ると順位がつけられて、各作品の評価を録音をしたテープが送られてきますので、みんなで聴きながら作品を

健康な方もどなたでも入会を希望される方は歓迎いたします。一緒に、腕を磨きましょう。入会は明科公民館(62・4605)へお申し込みください。(明科潮沢、代表 宮下幸光)

櫻

この7号から、各「地区公民館事業」の紹介、「短歌・俳句」の紹介、そしてこの「編集後記」欄が新たに設けられることになりました。

紙面を通じて、よりいっそう身近に公民館活動を感じていただくとともに、山の緑も目に眩しい安曇野に住む私たちならではの紙面

を、皆さまとご一緒に作って行ければと思います。

この季節、お庭には、「振花(ラン科)」「振摺」も咲きますが、百人一首の「みちのくの…」の歌でも有名ですね。新設された「短歌・俳句」のコーナーに皆さん奮ってご投稿ください。今年一年宜しくお願いたします。(N.N.N)